

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 8 日現在

機関番号：24201

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20760429

研究課題名（和文） 滋賀県における横向きツシを持つ伝統的町家の研究

研究課題名（英文） Study of the traditional town house having YOKOMUKI-TSUSHI at the Shiga Prefecture

研究代表者

石川 慎治（ISHIKAWA SHINJI）

滋賀県立大学・人間文化学部・助教

研究者番号：50374971

研究成果の概要（和文）：滋賀県内の伝統的町家を再考する上で、横向きツシ（表側から二筋目以降の部屋の上部にあり通り庭に開いているツシ）に着目し、横向きツシを持つ伝統的町家に関する研究を行った。文献・現地調査などにより、滋賀県内で計 17 棟を確認することができ、分析の結果、①該当する町家はほとんどが彦根市の旧城下町や街道沿いに立地、②横向きツシはその形態からコの字型・一直線型に分類、③一直線型よりもコの字型の横向きツシを持つ町家が古い形式と推測される、という結果を得ることができ、湖東地域における伝統的町家の一形式と推測された。

研究成果の概要（英文）：I paid my attention to YOKOMUKI - TSUSHI (storing space which there is it in the upper part of the room, and where there is the dirt floor side) in reconsidering a traditional town house in Shiga prefecture and performed the study on traditional town house having YOKOMUKI - TSUSHI. By documents, a field work, I was able to confirm 17 in total traditional town house having YOKOMUKI - TSUSHI in Shiga prefecture. As a result of analysis, the following things became clear. ①Most were located in the applicable town houses along the old castle town and the stage of Hikone-City, ②I was able to classify YOKOMUKI - TSUSHI in type KONOJI and type ITYOKUSEN from the form, ③the traditional town house having YOKOMUKI - TSUSHI of the type KONOJI is supposed with an old form than type ITYOKUSEN. Therefore, the town house having YOKOMUKI - TSUSHI was supposed with one form of the traditional town house in the lake east area of Shiga prefecture.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠

キーワード：町家・ツシ・横向きツシ・滋賀県

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

滋賀県内には伝統的町家が今も良好な状態で数多く残っている。一般的な町家は道に面した表側の部屋上部をツシとして使用されていた。しかし、彦根市や近江八幡市にある町家の中には、表側から二筋目以降の部屋の上をツシとして使用する例（以下、横向きツシと呼ぶ）が確認されている。この横向きツシは通常のツシとは異なり、通り庭に面し、通り庭との境に仕切り壁を持たず大きく開口している特徴を持っており、竈の煮炊きに使用する柴などを保管していた。

既往研究では、これまで確認された横向きツシは主として城下町ではなく、街道沿いの集落にあり、町家などの立地などから都市周辺部の町家の特徴の一つとして考えることができる。また、分析を行った町家の数は少なかったものの、横向きツシの分析などから横向きツシの類型・形成過程などについても指摘している。このように、横向きツシから伝統的町家をもう一度見直していくことは、滋賀県の伝統的町家を考える上で重要な視点であると考えられる。

しかし、これまでの滋賀県全域の民家調査においては、横向きツシから伝統的町家を捉えてこなかったため、横向きツシが滋賀県の一地域に見られるものなのか、滋賀県全域まで及ぶものなのかは明らかになっていない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、滋賀県を対象として、横向きツシの形態、空間特性や構築年代とその変遷などから、滋賀県内における横向きツシを持つ伝統的町家について明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 滋賀県内における横向きツシを持つ町家の把握

①文献調査

これまでの研究で明らかとなった町家の特徴を手がかりに、横向きツシを持つと思われる伝統的民家を文献からリストアップする。参考にした文献は、「滋賀県緊急民家調査報告書」（滋賀県教育委員会、1964）、「滋賀県の近世民家—滋賀県近世民家調査報告書—」（滋賀県教育委員会、1998）、各市町の町並み調査報告書などである。

②現地による情報収集

当初は県内各市町の文化財担当者を対象にして、横向きツシを持つ伝統的町家の有無を問い合わせる予定であったが、数か所の事前調査により思うような結果が得られないことが予想されたため、各市町にある博物館・資料館・公開町家などへ直接出向いて横

向きツシを持つ町家の情報収集を行った。

(2) 横向きツシを持つ町家の調査・分析

①横向きツシの空間特性の抽出

(1) ①、②の調査でリストアップされた伝統的町家を対象に、現地での確認を行う。横向きツシを持っていれば町家の実測調査や所有者への聞き取り調査を行う。そして、実測調査のデータ（平面図や断面図等）や現地観察を参考に、横向きツシの空間特性（位置、幅、奥行、床高など）を明らかにする。

②横向きツシを持つ町家の特徴の抽出

横向きツシを持たない一般的な伝統的町家との比較を行う。特に、これまでの研究で街道沿いに横向きツシを持つ町家が多いことから、近隣の旧城下町内にある代表的な町家との比較を中心に行う。そして、横向きツシを持つ町家が農家的要素を持つと考えられていることから、近隣農村の民家との比較も行う。

(3) まとめ

滋賀県全域を対象としたときの横向きツシを持つ伝統的町家の地域性、横向きツシの分類と横向きツシを含めた二階部分の形成過程、横向きツシを持つ伝統的町家と農家の関係性などについて考察を行う。

4. 研究成果

文献・現地調査などにより、横向きツシを持つ伝統的町家は滋賀県内で最終的に17棟となった（表1）。

表1 滋賀県内の横向きツシを持つ伝統的町家一覧

番号	主屋名	主屋			横向きツシ	
		所在	立地	建築年代	形態	位置
①	旧村岸家住宅	彦根市	街道沿い	江戸末	コの字	中央
②	戸田家住宅	彦根市	街道沿い	江戸末～明治初	コの字	裏
③	吉田家住宅	彦根市	街道沿い	江戸末	コー	中央
④	鈴の音イサビセンター	彦根市	街道沿い	江戸末	コの字	中央
⑤	有川家住宅(赤玉神教丸)	彦根市	街道沿い	19c初頭	コの字	中央
⑥	成宮家住宅	彦根市	街道沿い	1895年	コの字	中央
⑦	杉山家住宅	彦根市	街道沿い	江戸末～明治初	一直線	裏
⑧	加藤家住宅	彦根市	街道沿い	19c初頭	コの字	中央
⑨	仲町会館	彦根市	街道沿い	江戸末～明治初	その他	裏
⑩	平尾家住宅	近江八幡市	街道沿い	江戸後	その他	中央
⑪	戸所家住宅	彦根市	彦根城下	1778年	コの字	中央
⑫	金森家住宅	彦根市	彦根城下	江戸末	コの字	中央
⑬	上野家住宅	彦根市	彦根城下	江戸末	その他	一
⑭	上田家住宅	彦根市	彦根城下	江戸末	一直線	裏
⑮	清水家住宅	彦根市	彦根城下	江戸末	一直線	裏
⑯	山本T家住宅	守山市	街道沿い	江戸末	その他	一
⑰	山本S家住宅	守山市	街道沿い	江戸末	一直線	裏

その結果、これらの横向きツシを持つ伝統的町家を対象としたまとめでは、以下のようなことが明らかとなった。

①滋賀県全域での横向きツシを持つ伝統的町家の把握と地域性について

横向きツシを持つ伝統的町家の立地は現在の彦根市（14棟）、近江八幡市（1棟）、守山市（2棟）であった（表1、図1）。また、先行研究では街道沿いに多く見られる町家

だとされていたが、本研究により城下町でも見つけることができた。特に彦根では、城下町よりも街道沿いのほうが横向きツシを持つ伝統的町家の棟数が多い。一方、彦根城下町の該当町家のほうが建築年代の古い町家が多いため、彦根では、城下町において横向きツシを持つ伝統的町家は早くにすたれてしまうが、一方で、街道沿いでは比較的遅くまで残っていたと思われた。このように、横向きツシを持つ伝統的町家は、広く湖東地域における伝統的町家の形式と推測された。また、該当町家の1階をみると、2列型以上の平面になっているため、横向きツシを持つ伝統的民家は中流以上の町家に見られる特徴と推測された。

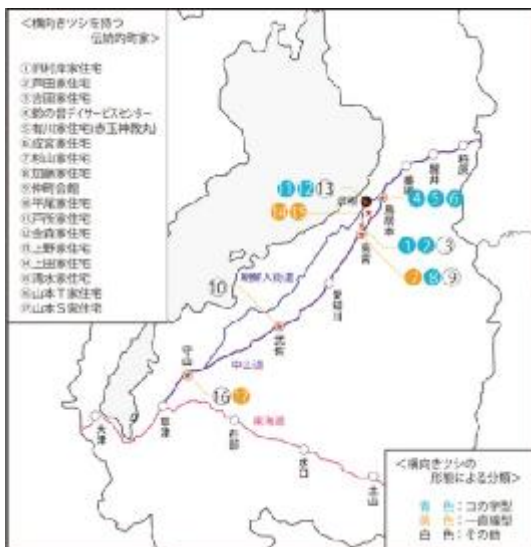


図1 滋賀県内の横向きツシを持つ伝統的町家の分布

②横向きツシの分類と横向きツシを含めた町家二階部分の形成過程について

横向きツシはその形態から、コの字型（壁面がコの字のようになっている：図2）と一直線型（横向きツシが建物奥側の壁面に一直線に伸びている：図3）の2種類に分類することができた。一般的に横向きツシを持つ伝統的町家の小屋組は道路側から大きく3分割することができるが、コの字型の横向きツシは和小屋である中央に位置し、一直線型の横向きツシは和小屋と裏の登梁部分にまたがるように位置していることが明らかとなった。また、コの字型の横向きツシは、登梁が町家に導入される以前からあった可能性が考えら

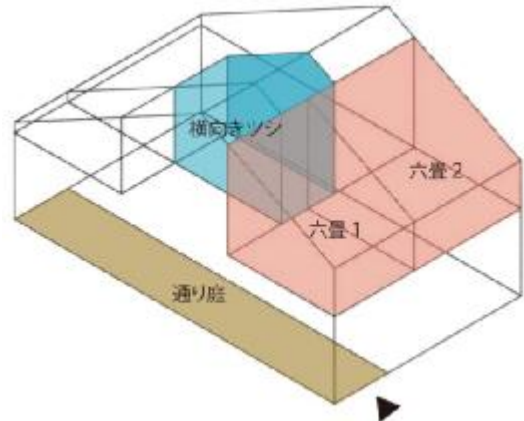


図2 コの字型横向きツシ (⑩金森家住宅)

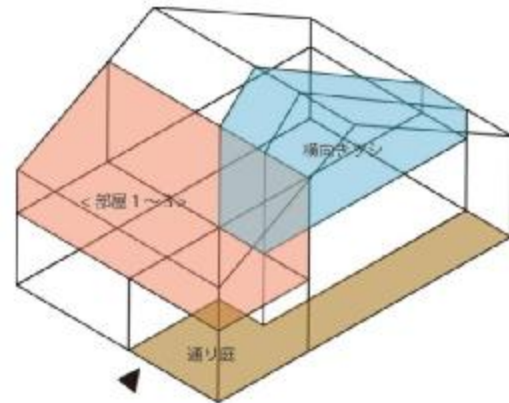


図3 一直線型横向きツシ (⑭上田家住宅)

れるのに対し、一直線型の横向きツシは登梁が町家に導入されて小屋組の裏部分を大きく使えるようになったことで生まれた、と推測された。このような小屋組の検討や町家の平面形態などから、一直線型よりもコの字型の横向きツシを持つ町家が古い形式と推測された。

③横向きツシを持つ伝統的町家と農家の関係について

十分な考察までには至らず、本研究の今後の課題となった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

- ① 張玲・濱崎一志・石川慎治、滋賀県湖東地域の町家における横向きツシについてその2 旧村岸家のツシ二階の空間構成、日本建築学会学術講演梗概集、F-2、pp. 513-514、2009、査読無。

〔学会発表〕(計1件)

- ① 張玲・濱崎一志・石川慎治、滋賀県湖東

地域の町家における横向きツシについて
その2 旧村岸家のツシ二階の空間構成、
日本建築学会大会、2009年8月29日、
東北学院大学。

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石川 慎治 (ISHIKAWA SHINJI)
滋賀県立大学・人間文化学部・助教
研究者番号：50374971

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし